

久宝寺遺跡

現地説明会資料



財団法人

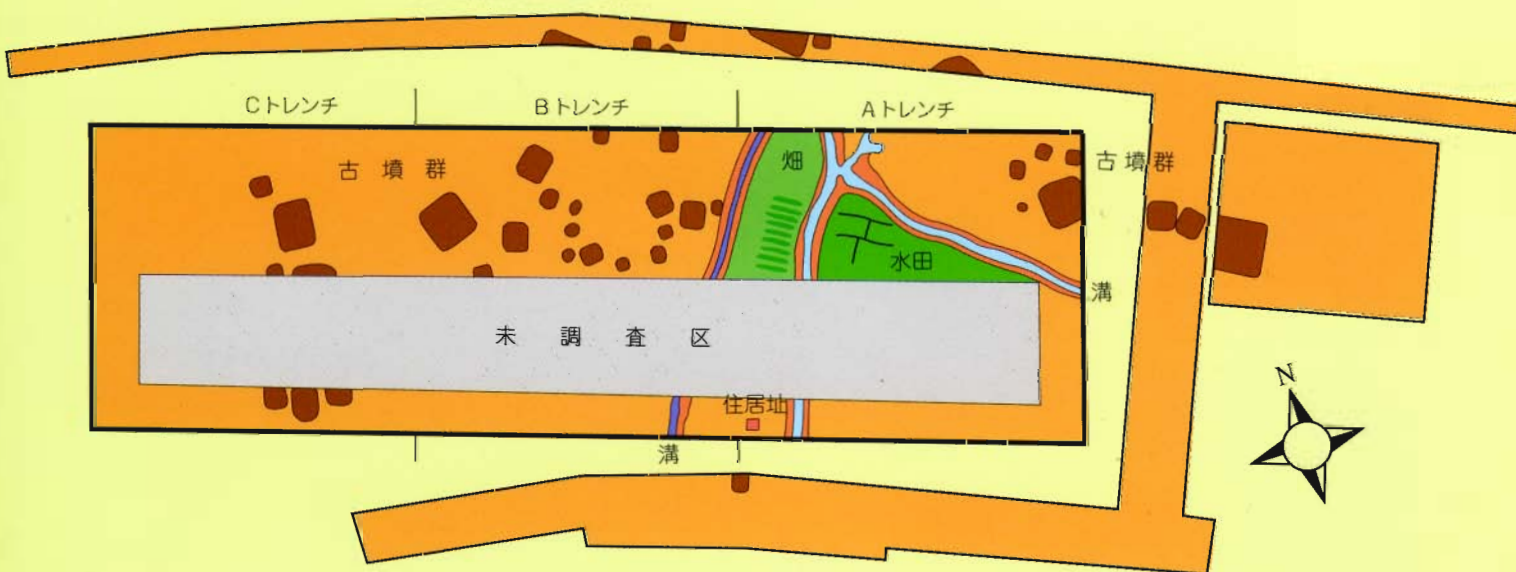
大阪府文化財センター

2002年8月24日



1. はじめに—久宝寺遺跡の発掘調査

(財)大阪府文化財センターは、旧国鉄竜華（りゅうげ）操車場跡地の再開発事業の一環として、大阪府東部流域下水道事務所が計画する、寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター水処理施設建設にともなう久宝寺遺跡の発掘調査を平成13年度から実施しています。当遺跡は縄文時代から近世まで続く遺跡です。特に古墳時代初頭の調査成果が際立っており、昨年度の調査では10基の古墳を確認し、今年度はさらに19基の古墳が見つかりました。周辺の調査を合わせると、現在までに総数30基以上の古墳がみつかっています。



2. これまでの調査でわかった古墳時代初頭の景観

今回の調査では古墳がひろがっている範囲や、畑・水田がひろがっている範囲の区分けがあきらかになりました。また最古段階の古墳がまとまって見つかったことにより、当地域における古墳の発生過程を考える上での重要な資料が発見されたといえます。

①溝

自然の落ち込みを利用してV字状に掘り込んだ溝です。墓の範囲を示していたのでしょうか？



②29号墳

周りに溝（周溝）を持つ古墳は、溝を掘って出た土砂を墳丘に盛り上げています。



③土器棺

29号墳の墳頂で見つかりました。子供が埋葬されているのでしょうか？



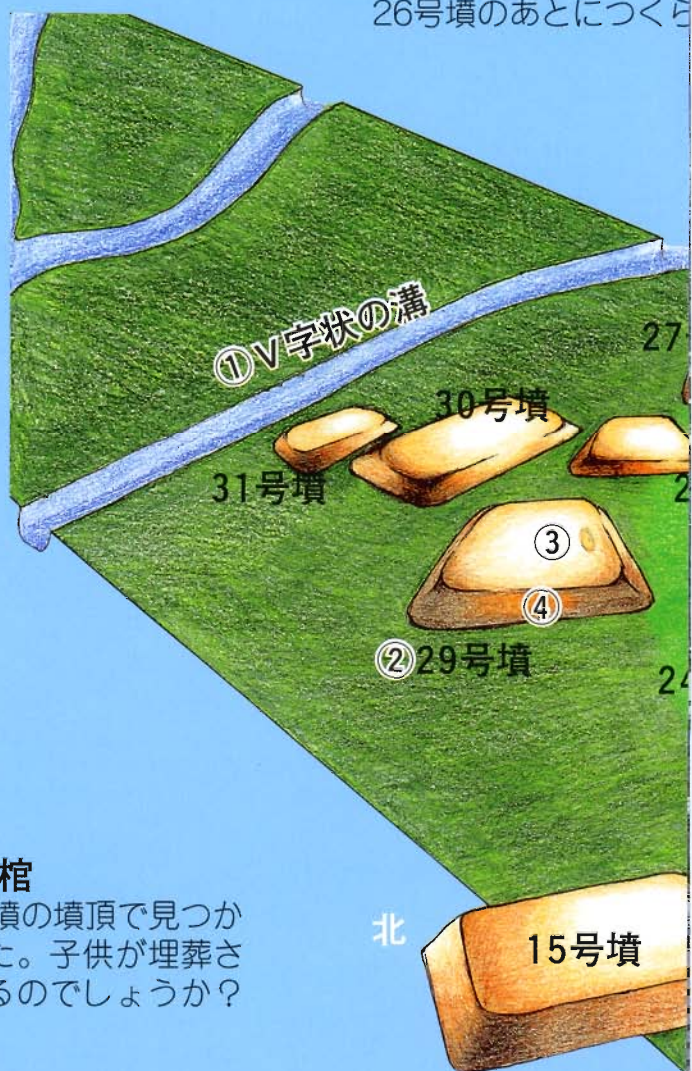
④木棺

29号墳の周溝から木棺が見つかりました。



⑥25号墳

26号墳のあとにつくら



⑤

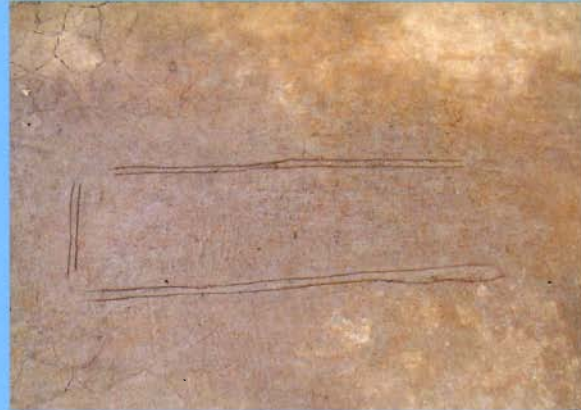
し



れました。



⑦26号墳



⑧木棺

組合式の木棺が見つかりました。蓋板は後世の耕作でけずられ、側板が見えています。



昨年度調査した7号墳でも、組合式の木棺が見つかりました。蓋板がきれいに残っていました。



3. 古墳時代以降の久宝寺遺跡(古墳がみつかるまで)



平安時代の溜池（ためいけ）から墨書土器（ぼくしょどぎ）が出土しました。何かのおまじないをしていたのでしょうか。



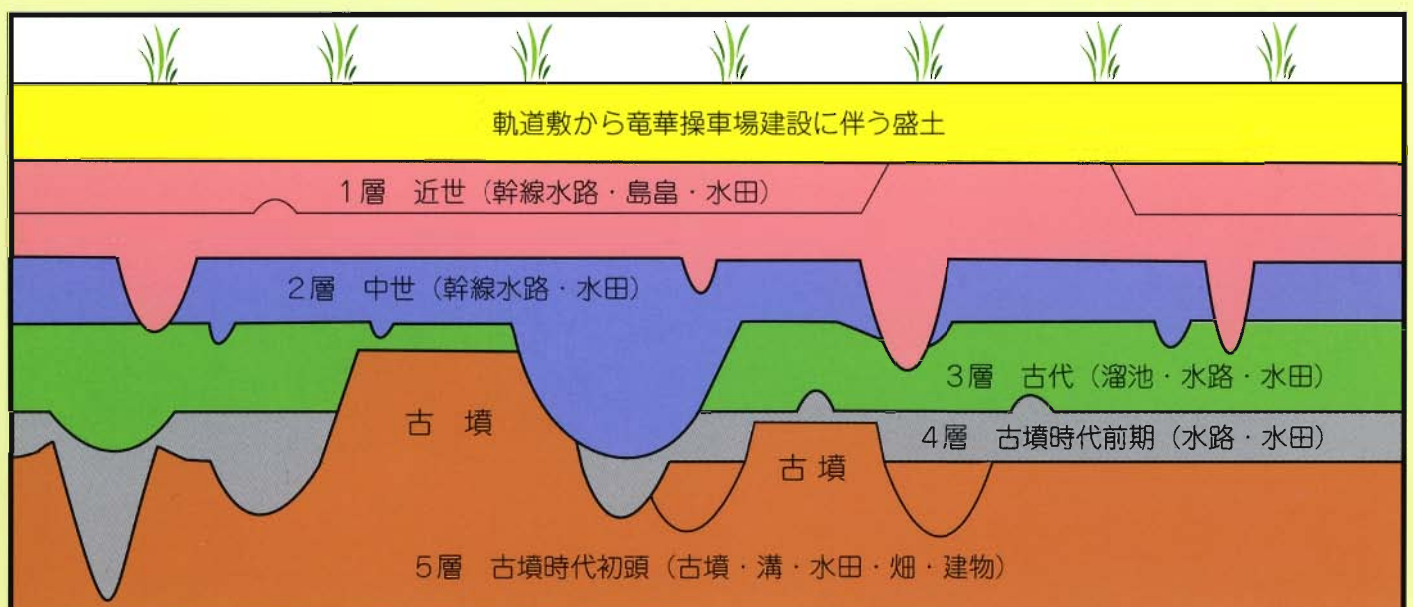
奈良～平安時代頃の井戸です。板を縦方向に組んで井戸枠を作っていました。井戸の中から和同開珎（わどうかいちん）が出土しています。



古墳時代前期に水田を築いています。古墳の間をぬうように水路をとおり、畦をめぐらせています。



左同様、古墳時代前期に洪水で溜まった土砂を利用して水路をつくり、水田に水を流しています。



4. 調査区の土層断面を模式的に表した図



5. 堤から出土した土器

溝の堤の中から土器が見つかりました。洪水が起きないようにお祈りをして埋めたのでしょうか？右はその土器で左は出土したようすです。



6. 古墳とその周辺から出土した土器

2列目の中央の2つは古墳の周溝から出土した土器で、右が15号墳から、左が3号墳の周溝の南側から出土したものです（どちらも前年度の調査より）。もともと古墳の上に供えられていたものが周溝に転落したものと考えられます。底には穴がかけられていました。最前列の小型の土器5点は15号墳の周溝でみつかった土器です。その他は、古墳の周りで見つかった土器です。